

平成26年度決算がまとまりました

重い納付金負担により、 今後、厳しい財政運営に

7月9日に開催された第106回組合会において、平成26年度の決算が可決・承認されましたので、お知らせします。

**抜本的な制度改革は行われず
納付金への負担は重いま**

当健保組合では、平成26年度の予算編成時に、増え続ける納付金負担に対応するため、保険料率を千分の94に引き上げさせていただいたうえで、財政運営を行いました。その結果、26年度決算において、収入総額28億1779万円、支出総額26億6674万円、差し引き1億5105万円となったものの、経常収支では差し引き3826万円の赤字で終了しました。

保険料率の引き上げにもかかわらず

◎ 平成26年度収支決算概要 ◎

《健康保険》

【収入】

科 目	決算額 (千円)
みなさんと事業主から納められた保険料	2,588,179
健保組合が互いに出し合って助け合うお金 (調整保険料)	36,477
繰 越 金	85,000
繰 入 金	70,000
そ の 他	38,135
合 計	2,817,791

【支出】

科 目	決算額 (千円)
病気やけがやお産をしたときに 健保組合が負担した保険給付費	1,294,083
高齢者の医療に使われた納付金	1,168,003
健康づくりに使われたお金 (保健事業費)	118,725
健保組合が互いに助け合うための拠出金	36,306
そ の 他	49,627
合 計	2,666,744

《介護保険》

【収入】

科 目	決算額 (千円)
みなさん※と事業主から納められた 介護保険料	274,358
繰 越 金 等	8,565
合 計	282,923

【支出】

科 目	決算額 (千円)
国に納める介護納付金	269,657
介護保険料還付金	91
合 計	269,748

※介護保険第2号被保険者たる被保険者等

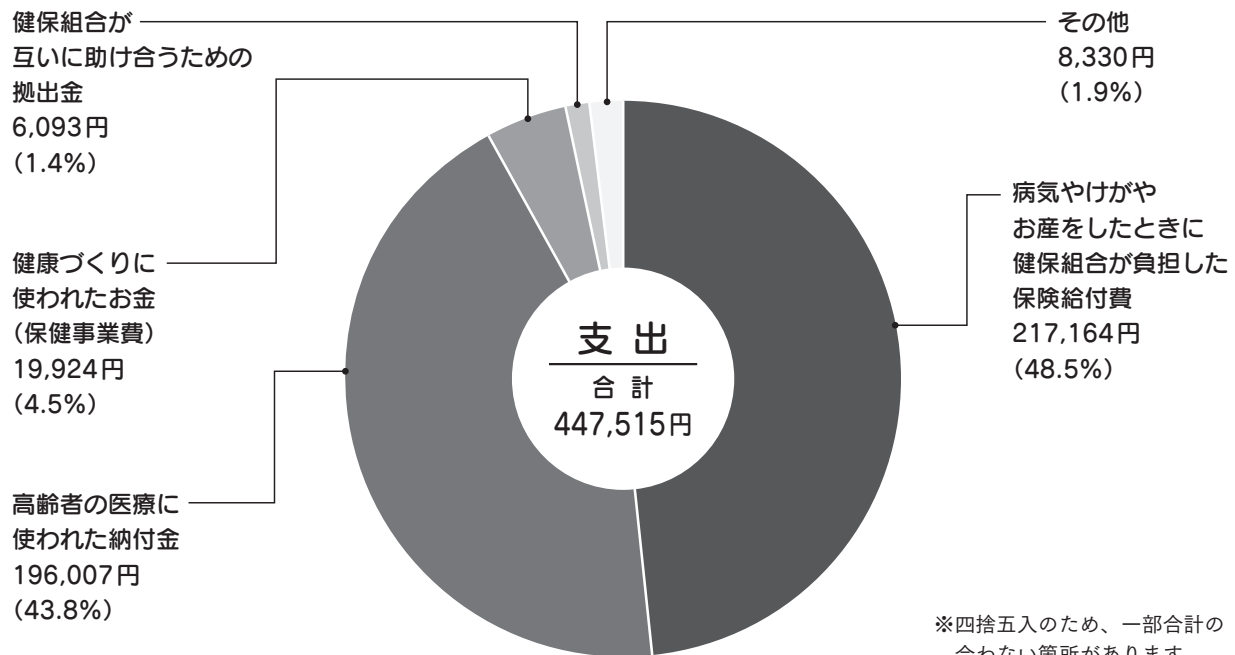
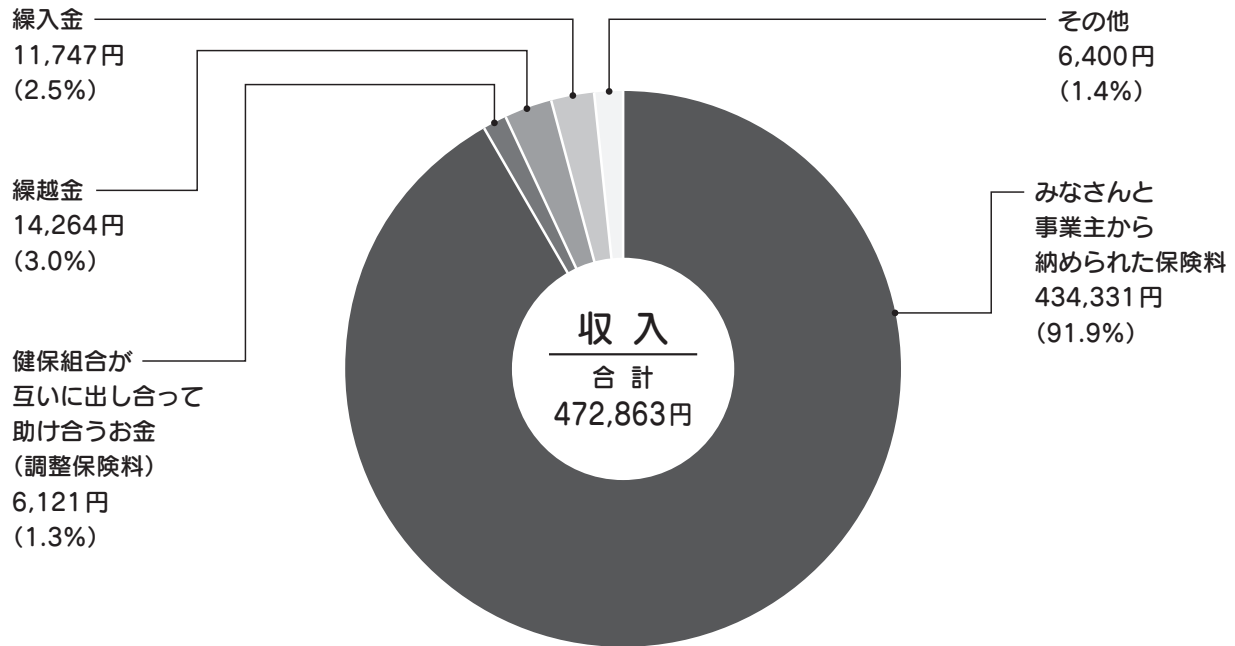
ず赤字となった要因は、重すぎる納付金負担にあります。高齢者等の医療費にあてられる納付金は、保険料収入の約半分を占めるほど負担が大きく、高齢者医療制度の創設以降、

健保組合財政は悪化の一途をたどっています。

先日の国会においては、医療保険制度改革関連法が成立し、後期高齢者支援金は収入に応じて負担する全

面報酬割が、今後、段階的に導入されることになっています。これにより健保組合の負担は増えるものとみられており、我々は以前より抜本的な高齢者医療制度の改革を求めてき

被保険者1人当たりでみた収支決算（健康保険）



※四捨五入のため、一部合計の合わない箇所があります。

たにもかかわらず、サラリーマンの負担に大きく依存したしくみは変わっていません。今後も健保組合は厳しい財政運営を強いられることになります。

保険料収入は 前年度比約2億円の増加に

収入では、財源の柱となる保険料収入が前年度より1億8609万円増加の25億8818万円となりました。このほか、前年度からの繰越金8500万円、積立金から繰入金7000万円が収入の不足にあてています。

支出では、みなさんの医療費などとして保険給付費が前年度とほぼ同額の12億9408万円となりました。納付金については、11億6800万円となり、同比1億1116万円の減少です。

このほか、各種健診の費用や保養のための保健事業費は、前年度とほぼ同額の1億1873万円となりました。厳しい財政状況のなかでも、みなさんの健康づくりを支えることは大変重要な事業の一つと考え、今後も当健保組合は、健康づくり支援を実施してまいりますので、どうぞこれらをご活用ください。